

当院における脊髄損傷患者の疫学調査

かがわ総合リハビリテーション病院

整形外科 医師 宮地 健、中塚 洋一、高橋 右彦、亀山 直美

キーワード：脊髄損傷、高齢化、転倒・転落

要 旨

【はじめに】脊髄損傷は、かつては労働世代の男性に多かったが、近年は高齢者の頸髄損傷不全麻痺が増加している。当院における脊髄損傷患者の疫学を調査した。【対象・方法】3年6か月間（08年10月1日～12年3月31日）に脊髄損傷のリハ目的に当院に入院した患者66例（男51例、女15例）の入院時年齢、発生原因、損傷高位を後方視的に調査した。【結果】平均年齢は56.2歳。50歳以降が72.7%。70歳以降の男女比は5：7。外傷性脊髄損傷53例では交通事故、転落、転倒の順に多く、50歳以降では転落、転倒が交通事故を上回っていた。損傷高位では66.7%が頸髄損傷で、そのうち82%は不全麻痺であった。【考察】今回の調査結果は諸家の報告とほぼ同様であった。今後も高齢者人口の増加に伴い、脊髄損傷患者も高齢化傾向にあり、転倒・転落による受傷、頸髄損傷不全麻痺や女性高齢者の占める割合の増加が予測される。

1. はじめに

脊髄損傷は整形外科外傷の中でも最も重症度の高い疾患の一つである。かつては労働世代の男性に多く発生する傾向にあったが、近年は高齢者人口の増加に伴い、高齢者の頸髄損傷不全麻痺が増加していると言われている。

今回、当院における脊髄損傷患者の疫学調査を施行したので報告する。

のピークは低く、50歳以降の割合が72.7%と、高齢者に偏った傾向にあった。

また、男女比については、60代までは男性の比率が圧倒的に高いのに対し、70歳以降では男女比が5：7と、女性の方がむしろ高い傾向にあった。

2. 対象・方法

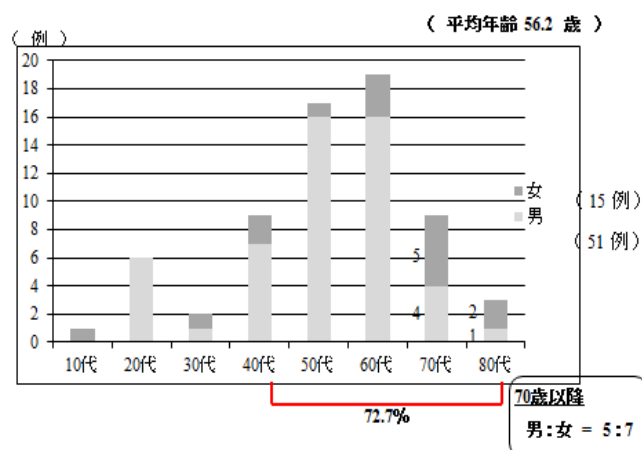
2008（平成20）年10月1日から2012（平成24）年3月31日までの3年6か月間に、脊髄損傷に対するリハビリテーションを目的として当院に入院した患者66例（男性51例、女性15例）を対象とし、診療録を後方視的に調査した。調査項目は、当院入院時の年齢、発生原因、脊髄損傷の損傷高位とした。

3. 結果

(1) 年齢（図1）

当院入院時の平均年齢は56.2歳であった。20代と60代にピークを認める二峰性を示したが、20代

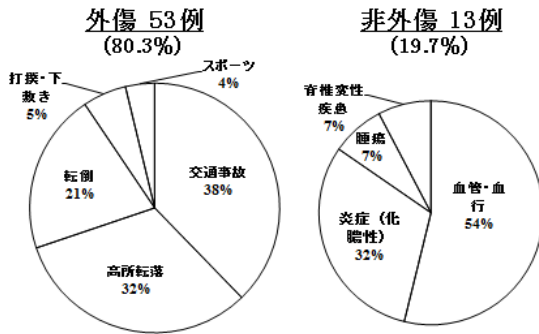
図1：年齢



(2) 発生原因 (図2)

発生原因別にみると、外傷性脊髄損傷 53 例、非外傷性脊髄損傷 13 例であった。

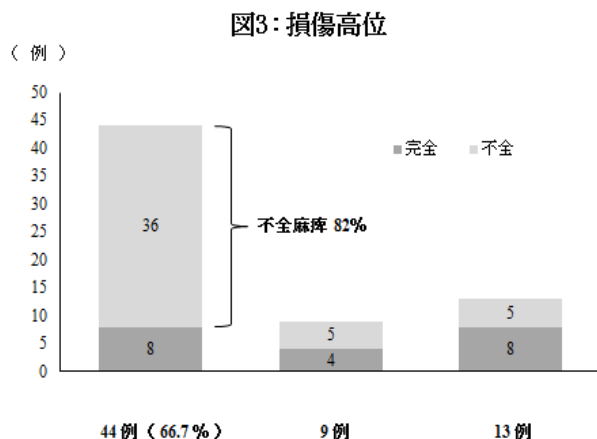
図2: 発生原因



外傷性脊髄損傷 53 例のうち、最も多かったのが交通事故で、以下、高所転落、転倒、打撲・下敷き、スポーツの順であった。50 歳以降に限定すると、高所転落、転倒が交通事故を上回っていた。

(3) 損傷高位 (図3)

損傷高位別にみると、頸髄損傷が 44 例と最も多く、全体の 66.7%を占めていた。頸髄損傷を損傷度合い別にみると、完全麻痺は全体の 18%で、残り 82%は不全麻痺であった。



4. 考察

本邦において、脊髄損傷の全国調査は過去 2 回、新宮¹⁾や柴崎²⁾らにより行われている。過去 2 回の全国調査を比較すると、第 2 回全国調査の方が平均年齢は高く、50 歳以降の発生率も増加していた。発生原因は、いずれも交通事故、高所転落、転倒の順であったが、交通事故の占める割合は減少し、転倒は増加していた。また、損傷高位別では頸髄損傷の割合が増加しており、頸髄損傷者における不全麻痺患者の占める割合も増加していた。(表 1)

今回の調査は、全国調査とほぼ同様の結果であったが、50 歳以降の高齢者の受傷原因では、転落、転倒が交通事故を上回っており、70 歳以降では男女比が 5 : 7 と、女性の方がむしろ多い傾向にあった。

これまで脊髄損傷は男性に多いとされてきたが、これは労働世代の男性が高エネルギーによる事故で受傷することが多かった為であり、近年のように軽微な外力による高齢者の受傷が増加した状況においては、女性高齢者の占める割合が高いことは自然なことだと思われた。

今後も高齢者人口の増加に伴い、脊髄損傷患者はより高齢化する傾向にあり、転倒・転落による受傷が増加し、頸髄損傷不全麻痺の占める割合が高くなると推測される。また、女性高齢者の占める割合も増加すると思われた。

5. まとめ

- (1) 過去 3 年 6 ヶ月間に当院で入院リハを施行した患者 66 例の疫学調査を行った。
- (2) 50 歳以降の割合が 72.7%を占め、高齢者の割合が高かった。
- (3) 外傷性脊髄損傷 53 例の発生原因では、交通事故、高所転落、転倒の順であったが、50 歳以降では、高所転落、転倒、交通事故の順であった。
- (4) 損傷高位別では、頸髄損傷が全体の 66.7%を占め、そのうち 82%は不全麻痺であった。

表1

		第1回全国調査 [1990～1992] [新宮]	第2回全国調査 [2002] [柴崎]	当院 (2008～2012)
① 年齢	平均年齢	48.6歳	55.4歳	56.2歳
	50歳以降の 発生率	51.7%	61.7%	72.7%
② 発生原因		① 交通事故 43.7% ② 高所転落 28.9% ③ 転倒 12.9%	① 交通事故 約35% ② 高所転落 約30% ③ 転倒 約20%	① 交通事故 37.7% ② 高所転落 32.1% ③ 転倒 20.8%
③ 損傷高位	頸髄損傷の 占める割合	75.0%	約80%	67%
	頸損のうち 不全麻痺の 占める割合	78.8%	約83%	82%

【参考文献】

- 1) 新宮彦助：日本における脊髄損傷疫学調査 第3報 (1990～1992). 日本パラプレジア医学会雑誌8：28-29,1995.
- 2) 柴崎啓一：全国脊髄損傷登録統計2002年1月～12月. 日本脊髄障害医学会雑誌18:271-273,2005.